



子どもたちの眼、キラキラ輝いています。

広報

ひがし しらかわ

1992
平成4年

1

No.369

発行 東白川村・編集企画課
岐阜県加茂郡東白川村神戸
〒509-13 ☎05747-8-3111
印刷 下呂印刷株式会社

人口の動き

—11月末住民登録人口から—

世帯数	909世帯
人口	3,467人
転入	0人
転出	3人
出生	2人
死亡	5人

先月と比較して6人減
昨年同月と比較して
32人減

あす 未来を見つめる若芽たち!

あけましておめでとうございます。

平成4年の幕が開きました。「1年の計は元旦にあり」という言葉がありますが、新年を迎えいろいろな夢を描かれたことと思います。

さて、新年第一号の表紙を「子ども」で飾ってみました。子供たちの屈託のない表情を見てやって下さい。確実に未来に向けて幼い芽たちはスクスク育っています。21世紀の主演になっていくのは彼らなのですから。



神戸保育園にて



高齢者生活福祉センター

名称決定！おぼろぎ

オープンを待つばかり

平成四年は申年です。

日本に生息するニホンザルは、昔話などにも登場し、昔から日本人に親しまれてきました。古事記や日本書記に登場する道案内の神様サルタヒコノカミはサルであるともいわれています。

また、ことわざにもサルにまつわるものはたくさんあります。「サルも木から落ちる」得意なことでもちよつと油断すると失敗するというたとえです。普段何気なくすることで「いつもやってくるから」とつい気を抜くこととはないですか？サル年を機に物事の「慎重さ」について見直してみるのはいかがでしょう。

ところで村内に申年生まれの方は二百八十四人（十一月末日現在）。村に在住する申年の最初に生まれたみなさんに新年の抱負を伺ってみました。



希望に輝く平成四年の新春を迎え皆様のご健康と

ご多幸を祈念申し上げます。昨年の国際情勢は自由と民主化、平和共存の流れにソ連邦の崩壊を始め歴史に残る出来事の多い年でした。国内においても日本の国際貢献と貿易の自由化問題、バブル経済の破たんと言気減速、高齢化の進行、出生減と将来人口問題等、今迄に経験したことのない新しい時代の到来を感じる年でありました。

夢と希望に満ちた村づくりを

—村長 桂川 眞郷—

村内では四月に村長、村議会議員選挙が行われ不肖私も皆様のご理解ご支援を賜り二期目の村政を担当する栄を得ました。初心忘ることなく全力を尽して

努力する決意を新たに致しました。昨年は二十一世紀に向けての総合計画第一年目として、高齢者生活福祉センターを始め村営住宅、教員住宅、農産物加工施設の着工、ふるさとセンターの完成、五加バイパス一部開通、こもれびの里整備着手等計画事業が目白押しに進行中であります。今年には建設中の諸施設の完成に続いて新たに水道事業に着工、新庁舎建設事業の計画樹立、高齢者福祉、健康づくりの推進、道路橋梁整備の促進等活力ある産業の振興、心豊かなふるさとづくりを積極的に推進して参ります。

今年も夢と希望に輝くすばらしい年でありませうと念願し、新年のごあいさつといたします。

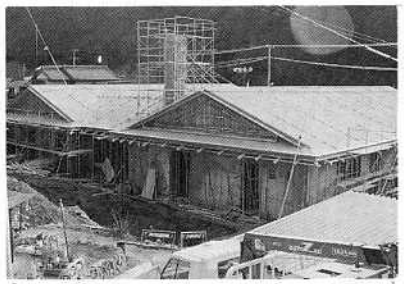
平成三年六月二十八日に着工となった「東白川村過疎高齢者生活福祉センター」の名称が決定しました。七月から八月にかけて募集を行っていましたが、寄せられた応募総数は六十六点、身近な問題として考えられている「村の高齢化」への関心の高さと施設に対する期待の大きさを証明する結果となりました。

やわらかく、暖かいイメージの

「せせらぎ荘」と命名

その名は「せせらぎ荘」。

「広く村民に親しまれ、東白川村の老人福祉施設にふさわしく、また若い世代にも受け入れられるような名称に」そうした選考基準をもとにして、村民の皆さんに募集を行った高齢者生活福祉センター。募集が始まった頃は、「いったい何点くらい応募が集まるだろう」と関係者をやきもきさせましたが、その心配をよそに、ふたを開けて



名称も決まり工事も急ピッチ

みればなんと六十六点もの応募が集まりました。

「せせらぎ荘」の名前は、平の安江淑子さん（77）の応募によるものです。十一月に行われた「高齢者生活福祉センター建



今井幸彦さん (35)
S. 31.1.26生 (陰地)
家族全員の健康で
あるように
(S. 31年生 31人)



熊沢清子さん (47)
S. 19.1.8生 (黒淵)
体力づくりを心掛
け頑張りたい。
(S. 19年生 33人)



安江伊雄さん (59)
S. 7.1.5生 (黒淵)
健康で明るく楽し
い家庭生活が目標。
(S. 7年生 70人)



樋口敬一郎さん (71)
T. 9.1.13生 (西洞)
日々の仕事に感謝
する毎日です。
(T. 9年生 44人)



安江ゆきさん (83)
M. 41.1.16生 (栃山)
今年も道路ぞいを
花で飾りたい。
(M. 41年生 28人)



古田耕一さん (23)
S. 43.1.11生 (上親田)
今、仕事が楽しい
から頑張りたい。
(S. 43年生 25人)



村雲千紗さん (11)
S. 55.1.1生 (中通)
中学校で部活動や
勉強を頑張りたい。
(S. 55年生 53人)



あけまし
ておめでと
うございま
す。迎春を
お喜び

すると共に迎えましたこの一年、皆様にとって良い年でありますようお願い申し上げます。

昨年は選挙の年で、選ばれました十二名が微力ではありますが、一生懸命議会活動を続けて参りました。皆様方の御理解と御支援に心からお礼申し上げます。

近年、海外からは経済大国日本と言われ、国内では豊かになったと言われて来ましたが、山村東白川を取り巻く状況は依然として厳しく多くの課題をかかえております。

その一つは一層の経済基盤の安定ではないでしょうか。後継

若者が誇れる村をめざして

一 村議会議長 田口 哲彦

者対策が問題点の一つでもあります。整備された農地をもとに、環境を守ると言う大切な一面の役割をもつ農業の振興、経済的に重要な林業、商工業の振興、それらを多面的に考えバランスある産業全体の振興こそ最も大切な、急がねばならない大きな課題であると思われまます。

又、道路改良、上下水道など生活環境の整備、福祉の充実、中学校、役場庁舎の改築計画など、求められている政治的課題はいっぱいです。

若い人達が誇れる農山村東白川村に、元氣いっぱい白川村に……村づくりの本当の願いです。

この願いを胸に今年も頑張ります。村民皆様方の一層の御指導とお力添えをお願い致します。

設推進協議会」において「急流や瀬の豊富な白川にあって、母なる川」として持っているやわらかく暖かなイメージは、お年寄の憩の場の名称としてまさに最適である」と決定に至りました。

応募のあった六十六点を見てみると、上は八十二歳のお年寄から下は十歳の小学生まで年齢層も幅広く、また一人で十点もの応募をされた方もあり、村民の関心の深さを示すとともに、「せせらぎ荘」一点に絞るまでにはかなりの苦労があったようです。

デイ・サ

「その名前の響きを聞いただけで、心が安らぐような、そんなつもりで考えたんですよ」と語って下さったのは、「せせらぎ荘」の名付け親、安江淑子さん(平)

江さん、名称応募六十六点の中から自分の考えた名前を決まったという喜びもひとしおですが、それよりも高齢者センターができることの喜びの方が大きいそうです。

「今は、みなさんと一緒に楽しくせせらぎ荘を利用できる日が来るのが本当に待ち遠しいです」と元気に語って下さいました。



みんなで 知恵を出しあおう



元日あるいは二日に見る夢を初夢といいますが、みなさんは平成四年を迎え、どんな夢をお持ちになりましたか。「広報ひがしらかわ」では、平成四年申年にちなんで申年生まれの方七名にご出席をいただき「私の想う村の将来像」と題して、「夢」を描いていただく新春座談会を行いました。

村づくりは健康から

▼今回「座談会」に出席して下さったのは、申年生まれの方七名と議会から田口議長さん、また桂川村長を加え九名の皆さんです。出席した皆さんはそれぞれ立場で夢を持ってみえま

した。(司会は安江企画課長)

―まず、新年に向けての抱負をお聞かせ下さい。

安江保さん―一年間自分も含め家族一同健康で過ごすことですね。それがひいては、「健康な村」につながっていく。

牧野紳江さん―去年は、主人も私も病気をしたので、今年はず健康を第一目標にします。

桂川村長―病気をしてはじめて健康のありがたさがわかる、自分なりに自重し、健康づくりのため自己管理をしていきたいと思っています。

今、村に必要なこと

▼他の皆さんも同じような意見。皆さんどうやら健康を第一に考えてみえるようです。明るく活気ある村への第一歩は「健康づくり」から始まるのです。

―それでは、次に村の現状を考え、活力ある村(元気村)にしていくためには何が必要でしょうか。

田口議長さん―村民+村外の人のパワーが絶対必要です。また、現代は村外にたくさん人の競争相手があります。それらに勝ち抜くための強烈な個性が大切。

田口貞造さん―申年ということもありですが、「猿知恵」ならぬ良い知恵を出しあっていくことが必要なことでは…。

村雲春子さん―白川ぞいの道路脇を美しくしていくこと。そうすれば、村外の人が、ちよっ



田口哲彦議長さん

と立ち寄りたいたいという気分になるのでは。また、若い人の力が絶対必要なので、小さいうちから学校でも、家庭でも村を愛する心の教育をしてもらいたい。

牧野さん―もっと大々的に村をPRするイメージアップ作戦。

安江三和さん―他の地域の人々がすぐに村のことがわかったら、安江文字さん―私たちが若い世代が、もっと村のことを知って村の一員であることを自覚する。

寺坂五郎さん―村出身の若い世代がリターンできるきっかけをつくる運動を起こして欲しい。

どの家からも小さい子供の声が聞こえるのが理想ですね。

保さん―まずは、道路改良。

道が良くなれば人も入ってくる道が文化を運んでくる。施設やイベントよりそこに通ずる道が最も大事。また人口減少を防ぐために子供を最底一人は村に残

座談会参加者



村雲春子さん(平) 59歳



寺坂五郎さん(下野) 71歳



田口貞造さん(中通) 83歳

今年(はる)は申年



村長 桂川眞郷

桂川村長―小さい頃から村に関心を持たせること、また若者が定着するよう一刻も早く生活環境を整備していくことが大切になってきます。
▼参加の皆さんは、おのこの立場からふだん感じていることを気兼ねすることなく話して

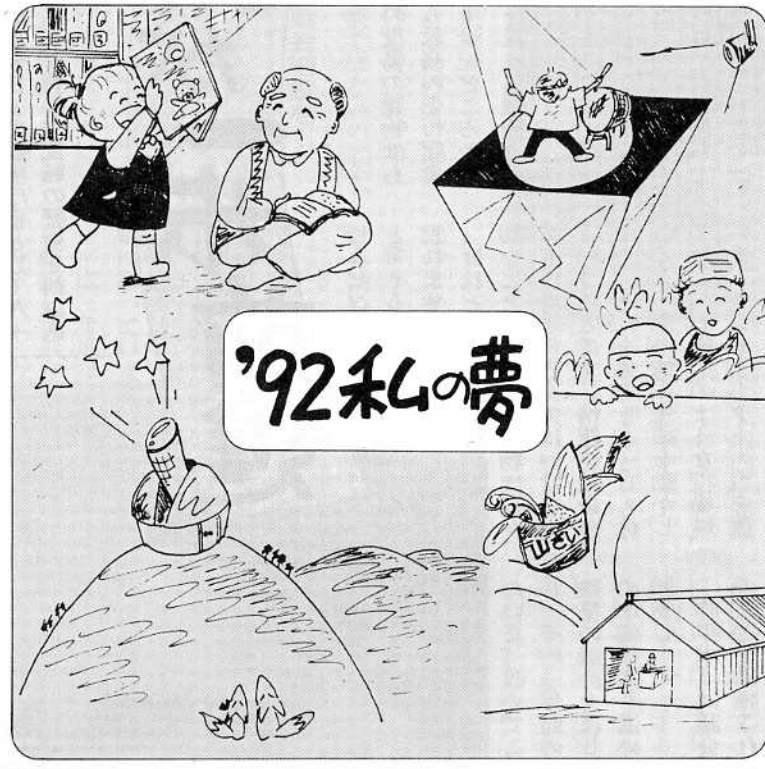
下さいました。やはり、村の現状のことを考えてみると、「人口問題」・「環境問題」この二点は、私たち村に住んでいる者にとっては、切実なる課題のようです。座談会の中では、「若い人を引き止めることも大切だが帰ってきたらと思うと、家に帰ることもできる条件を備えること」といった建設的な意見も出しました。

みなさんは村の現状はどうお考えですか。

こんな夢、あんな夢

私の夢

▼座談会は、村の抱える諸問題でかなりの盛り上がりとなりましたが、最後はメインのテーマでもある新年を迎えるの「夢」



を語っていただきました。真造さん―春には年寄のため、の憩いの場を作ってもらえる。私たちが何か社会的に貢献できることを捜したい。

施設があれば人が集まると思う。紳江さん―村の中に親子で楽しめる施設や図書館が欲しい。文字さん―自分の家は以前三世代家族だったので将来そうなりたい。

三和さん―もっと大きなイベントができる会場が欲しい。議長さん―若者にもっと奇抜なアイデアを出してもらえる元気な村の実現。桂川村長―皆さんの意見を参考に、潤いのある村づくりを進めたいと思います。

五郎さん―後山の施設の日でも早い完成が楽しみです。春子さん―村で採れる山採などを缶詰にする工場が欲しい。その缶詰を商品化できれば。保さん―村は空気が綺麗な所だから夜空を観測できるような

▼二時間にわたった座談会、紹介した意見は、ほんの一部に過ぎません。みなさんは、どんな「夢」をお持ちですか。「夢」実現のためみんなで知恵を出しあうことが、今一番必要なことではないでしょうか。



安江三和さん(西洞) 11歳



安江文子さん(下親田) 23歳



牧野紳江さん(大明神) 35歳



安江保さん(神付) 47歳

現在の役場庁舎の前身である神土尋常小学校校舎が建てられたのは明治二十四年。

「当時村民の智識の程度一般に低く、したがって校舎新築に賛同する者極めて少く、これが遊説に最も力を尽し、遂に劇場新築を条件として、寄付総額実に金一千参百有余円の巨額を得るに至りしという」。旧村誌に記されたこの校舎は、明治四十二年、さらに新しい校舎建設によって役場庁舎として使われるようになった。以来今日まで役場庁舎として八十二年、建物が出来てからちょうど百年、交転の歴史を刻み込んで来ました。

庁舎建設が一步前進

二十世紀をめざして 各種施設を整備

「総合計画」という言葉はいかにも堅苦しい響きを持つていますが、要するに村づくりの設計図です。

その設計図の基礎になつてゐるのは立村百年を契機に、住民の皆さんから寄せてもらったアンケートや、各種団体などからの要望です。

平成四年は、この設計図を具体化するために一步も二歩も前進する年になりそうです。その手始めが役場庁舎の建設

ですが、現在の役場の建物もちろん県内でも最高の老朽庁舎で、とても二十世紀どころか二十世紀の残りを託せる機能を持っていません。

二年ほど前のある初夏の朝、掃除当番の女子職員が派手な悲鳴をあげました。何と村長室の入口に大きな石亀が首を持ち上げてあたりを睥睨しているではありませんか。

このほかにも村長室への珍客は「青蛙」「鼠」など。しかしそれは住民にとっても親しみ易い「村役場」の象徴として愉快

なエピソード

と言えるかも知れませんが、けれども大切なことは、いかに建物は古くても中身まで古くてはいけないということ。情報化社会の中で、それを処理し、一日も休むことの無い住民生活を動かして行く「心臓」のような役場は、いま、コンピュータ一台を置く所さえ無いようなギリギリの所へ来ているのです。

総合計画の中では、役場庁舎の建設を平成五年度と定めていますが、平成四年の新春を迎え



現在に姿を残す明治の頃の役場庁舎

たいま、改めてこのことを確認し、その一年前の平成四年度は建築の設計をはじめ、庁舎建設の準備作業を進めなければなりません。

昨年末には議会においてもこのことが協議され、特に建設位置について議論が交されました。

その結果「新庁舎は現庁舎の位置とする」という結論に達し、その線に沿って今後の段取りを進めることになりました。

役場庁舎百年小史

明治三二年―白川街道加子母村まで開通。

明治四二年―新しい神土小学校が完成、現在の建物が役場になる。

大正三年―生糸相場暴落。旧東白川村誌刊行。

大正九年―初めて村内に電灯がとまり、役場も明るくなった。

昭和十六年―太平洋戦争開戦
昭和二〇年―太平洋戦争終戦
戦後処理で役場は大混乱。

昭和三〇年―この時の役場職員は村長以下一七人。

昭和三四年―伊勢湾台風大被害。役場の中は救済物資であふれる。

昭和四三年―八・一七豪雨災害発生、役場から外部への通信も途絶え村始つて以来の大被害に役場内大騒動。

平成元年―立村百年を迎え記念事業の展開に役場職員大活躍。稲の子捕獲大作戦。

平成四年―庁内職員約六十人。事務機械の置場に悩む。

役場も中学も現仕置で

新庁舎の位置を考
えるとき、最初に出て来た意見
は中学校を新天地へ移し、その
あとに庁舎を……ということ
でした。たしかに広い敷地内に伸
び伸びした配置をすることは、
二十世紀を展望したムードとし
ては最高です。

しかしそのためにはまず中学
校を建築しなければなりません。
新しい場所へ学校を建てると
なれば土地の選択、取得、造成、
建築、と五年間くらいの年月が
必要となり、そのあとに庁舎と
なるとさらに三年くらいかかり
ます。そして費用も莫大になっ
て実現が危ぶまれる状況となる
のです。

現在位置では駐車場が心配

現在の建物は役場になってか
らも八十余年、皆さんに生まれ
村の中心として気持ちの中にす
っかり定着していますから、大
部分の皆さんに受け入れてもら
える位置だと思われませんが、残
念なことに敷地が広いとは言え

ず、特
に駐車
場がせ
まいの
が欠点
です。



改築を待つ東白川中学校校舎

り込まれているもう
一つのポイントは、
商工会館と森林会館
の建設です。
商工会館は平成四
年度に平地内に建設
が決っており、森林
会館も計画中です。
そうすると、この
ふたつの事務所へお
越しの人の駐車も無
くなるわけです。

しかし
しそれは「村民センター」とい
う集会施設があるため、役場
へご用の人だけを考えればそれ
ほどの駐車台数ではないのです。

後山地区に集会施設を……

そこで後山こもれびの里に建
設を予定している「ハナノキ会
館」＝文化施設の役割が注目
されます。

この施設は庁舎と同じ年の平
成五年度に建設が予定されてお
り、現在の村民センターの機能
をほとんどここへ移すことによ
って現在の村民センターは新庁
舎とともに行政センター

的な利用を図り、駐
車場問題を解消した
と思います。
総合計画の中に盛

べた「ハナノキ会館」です。
建築物の内容はこれから議会、
関係者のご意見を汲んで具体化
しますが、「こもれび」＝木漏
れ陽という名称は後山地区の
森林を活かして、山の自然の中
にスポーツと文化の交流施設を
配置しようとするもので、村民
の皆さんの、こんな施設がほし
い……という要望を集約して実
現したいと思えます。

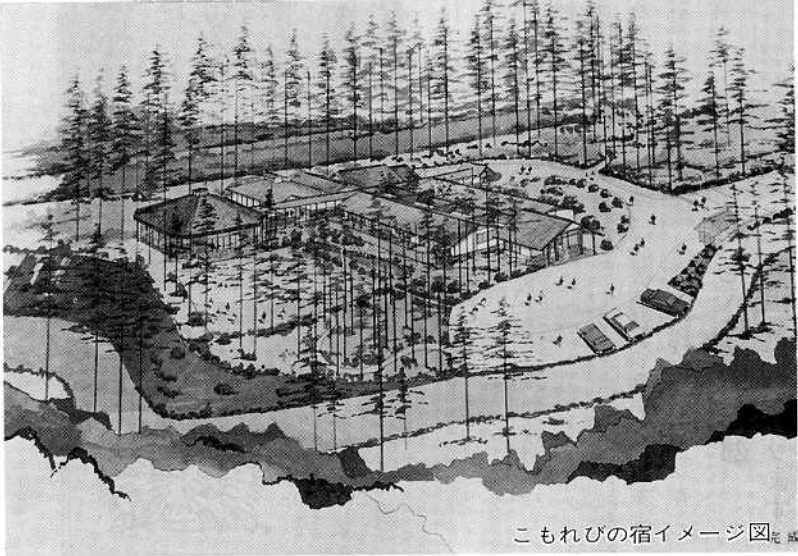
また、中学校の改築は総合計
画では平成七年に予定されてい
ますから平成五年になったら検
討を始める必要があるでしょう。
二十一世紀を目前に、夢と希
望を新校舎に託したいものです。
後山地区で進めている「こも
れびの里構想」は、事業全体を
平成三年から五年の間に行う予
定になっています。

平成三年度は、総合グランド
を建設しており、平成四年度は
そのグランドの継続と、「こも
れびの宿」と呼ぶ体験宿泊施設
の建設。そして五年度が前に述

に密着したキメこまかな施策も
決しておろそかにはしません。
成長しながら次世紀を迎えたい
二十一世紀まであと十年です。
その間村は大きく成長したいと
思います。
身体を縮めて迎える新しい年
代に希望はありません。大きく
伸びるために、平成四年は踏み
切り板を力一杯蹴る年としたい
ものです。

紀を迎える
までにはど
うしても造
っておきた
い各種の施
設を急ピツ
チで整備し
ようとして
いますが、
今まで進め
てきた道路
の整備や、
産業の振興
など、生活

こもれびの里の交流センター



こもれびの宿イメージ図

平成3年

各分野での取り組みが 大きく 評価されました!



数々の賞を手に大喜びの小学校児童会保健委員のみなさん

白川小学校の健康教育への取り組み。平成三年は、こうした取り組みが評価され、六つの大きな賞を受賞したすばらしい一年となりました。

☆「健康推進学校県一位・中規模校の部」(岐阜県教育委員会)初受賞。

☆「学校環境衛生活動優良校・努力校」(岐阜県学校保健会)三年連続三度目の受賞。

☆「全日本よい歯の学校」(日本学校歯科医会)四年ぶり二回目の受賞。

☆「岐阜県代表健康推進学校中規模校の部」(朝日新聞社)

これだけたくさん賞を一度に受賞したことは、東白川小学校としてというより越原・神土・五加小学校の時代からも含めて立村以来、初めての快挙。特に「県優秀校」は今年で三十四回を数える権威ある賞で、健康面ばかりでなく優秀な教育内容と積極的な実践教育を兼ね備えた学校(小学校二校、中学校二校)に送られ、岐阜県下の小学校四百十六校の頂点に立ったといっても過言ではない賞です。

また、初受賞の「健康推進学校」は一昨年までは「健康優良学校」という名称のもので旧神

岐阜県一の優秀校

「雲仙普賢岳の噴火、ソ連邦の崩壊…」国の内外で歴史に残るような出来事が起った平成三年が終わりました。村内は、たとえば、「ふるさと企画」の発足に始まって道、橋、施設とやはり村史に残るような出来事が、たくさんあり、また、村や学校などでは、他方面の分野で数々の表彰を受けた一年となりました。

そこで、新年号としては、ちよつと角度を変えて、いろいろな形で受けた表彰等を振り返って、平成三年を回顧してみたいと思います。

初受賞

☆「歯の優良校県一位中規模校の部」(岐阜県教育委員会)二年連続五回目の受賞。

☆「岐阜県優秀校」(岐阜新聞・岐阜放送)初受賞。

今、綱引きがトレンディ 村民ふれあい綱引大会

第五回村民ふれあい綱引き大会が、一月二十六日(日)午前九時(集合)から東白川小学校体育館で開催されます。

村の冬季スポーツとしてすっかり定着した感のあるこの大会、昨年は総勢五十四チーム約六百人が参加、年々チームごとに作戦やコスチュームなども工夫され今大会もかなりの熱戦が期待できそうです。

おしらせ



う「東白川村成人式」が次のように開かれます。

・期日 一月十五日(水)

・会場 東白川村民センター

・受付 十時～十時三十分

今年成人式の対象者となるのは六十名、また、今回初の試みとしてフルート・ピアノ演奏会(幸協直人とフラウト・ラ・モーレ)が行われます。

老人保健の一部 負担金が変わります

老人保健法(七十歳以上の老年者)に対する医療などを定めた法律)が改正されました。今回の改正は、介護体制の充実と老人保健制度の長期的安定を目指して行われたものです。

全国で約六兆円にのぼる老人医療費のうち、お年寄りが医療機関の窓口で負担しているのは約三%です。今後とも増え続ける老人医療費の負担を国民各層で適切に分かち合っていく、とい

東白川村 成人式

一月十五日新成人の門出を祝

土小学校が昭和三十四年に「日本一」となった賞のことです。

平成三年は「健康推進学校」というスタイルとなつての初年度。見事に県の代表として全国表彰を受けました。

「こうした数々の受賞は、日頃の子供たちの心掛けはもちろんですが、家族をはじめ子どもたちを取り巻く村全体の健康に対する深い理解、昭和二十六年県下トップを切つてスタートした完全給食をはじめとして一貫して受け継がれた健康教育の方針が、ここに大きく花開いたといえるでしょう」と中山健彦先生は、語つて下さいました。

また、養護担当の田口由子先生は、実践面から見て「給食後音楽に合わせたの一斉歯みがき、ランチルームでの合同給食・年中半袖半ズボンでの活動、こうしたことの積み重ねが実つたのだでしょう」と語られました。

今回の数々の受賞は、中山校長先生の言葉を借りれば、「村全体の健康に対する関心の高さがもたらした成果」といえるのではないのでしょうか。

主体性重視の

指導が評価

平成三年東白川中学校は、(財)発達科学研究教育センターから「発達科学研究教育奨励賞」という賞をいただきました。

ずいぶん長い名称ですが、この賞は、めまぐるしく変わりゆく現代社会に必要な個性と創造性を伸ばすための教育の方法や技術の研究開発の推進に努力している学校や、教育団体、教育団体に送られるものです。



研究主任、浅野先生

「良くいえば温和な悪くいえば競争心の育ちににくい地域にあつて、生徒の主体性を育てるため、例年行われていた行事、例えば体育祭や文化祭などの取り組みをもう一度見直し、生徒が自分達で考える場を与え、また、地域の人のつながり、親子での活動による対話、そうした面を重視してきたことが実つたのだでしょう」と熊崎満夫校長先生は、感想を語つて下さいました。二十一世紀は、すぐそこまで

やつてきています。二十一世紀を担うのは、今の子供達です。そうした意味でも今回の受賞は大きな励みとなることでしょう。

村及び各種団体も

また、平成三年村では「夢おこし事業表彰」に「こもればの里整備事業」が選ばれ、十一月には県税の優良納税町村として県から表彰を受けました。

森林組合では、岐阜県森林組合連合会から「連合会表彰」をさらに、東白川村婦人会は、「第二十八回岐阜県結核予防推進大会」において永年取り組んできた結核予防推進に関わる諸活動が認められ県知事から表彰を受けました。

こうした結果は、教育面、保健面、あるいは諸活動の面から、永年にわたり引き継がれてきた良い伝統が守られてきた成果なのです。小学校の中山校長先生がおっしゃった「結果は結果として素直に受けとめ、これをステップにさらに飛躍することが大切なんです。」この言葉が全てなのではないでしょうか。平成四年を迎え、一歩でも前進したいものです。

図書コーナー

Meet The Beatles



小林 信彦著
ビートルズ来日の裏側でこんな事件が。というフィクションなのに事実であるかのごとくにページが進んだ。ビートルズに憧れた世代、また全然知らない高校生達にお薦めします。
推薦人 (26歳 女)

老いたる父と

老年になり協議離婚したのち、生活を変え生き生きとする母と急速に老化する父。娘が父を看ながら親達に対する思いを書き込んでいる。老年離婚後の男性の割りの悪さを感じた。
推薦人 (71歳 女)

杉原 美津子著



う観点から改正されたもので、平成四年一月一日から次のように医療機関の窓口で支払う一部負担金が変わります。

外来	一月	九〇〇円
		(現行八〇〇円)
入院	一日	六〇〇円
		(現行四〇〇円)

老人保険制度により医療を受けるときは、保健証・医療受給者証・健康手帳を必ず受診する窓口へ提出してください。

浮かれた気分 プレーキを:

年末・年始は特有の気忙しさから、スピードの出しすぎや飲酒運転による事故が増加します。明るい年始を迎えるため次の点をしっかりと注意して下さい。

▽ドライバーの方へ

- ・道路状況に応じた速度でゆとりをもって走りましょう。
- ・飲酒運転は身の破滅です。「飲んだら乗らない、乗るなら飲まない、乗る人には飲ませない」を守りましょう。
- ・シートベルトは命綱です。正しく着用しましょう。また、タイヤチェーンなど滑り止めの確認をしましょう。
- ▽歩行者、自転車の方へ
- ・夜間は明るい色の服を着て、道路横断時は必ず左右の確認を。

災害

季節はずれの大雨の
もたらしたものは

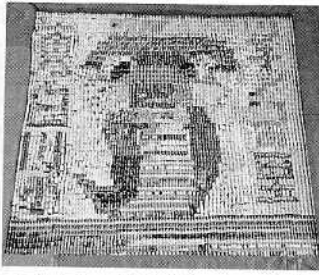


岩場に引っかかったのが幸い！

「今年の冬はよく降るねえ」といえば「雪」となるのですが、十一月二十七日から二十八日にかけて降ったのは大雨。二十七日から降り続いた雨は十六時間で百四十四リ。ちなみに昨年十一月一ヶ月間の村の降雨量は百九十二リだそうですからその多さがわかると思えます。平の沢尻橋工事の仮設の橋は増水で流されてしまいました。

芸術

これぞアート！
集めた缶は四千個



デザインは子供たちの発想

「空缶を利用して芸術作品を」小中学校で空缶を利用した絵が作られました。これは「カンカンアート」といって岐阜県環境整備事業協同組合がリサイクル活動をPRする一環として県内の小中学校に作品を募集したもので、小学校で「ツチノコ」をテーマにした絵は、約四千個、中学校で「東白川」と文字を書いた作品が二千五百個の缶を使用しました。ともに同型色の缶を捜すのに苦労があったようです。

風船

瀬戸内海の小島から
風が運んだメッセーシ



返事を手に喜びの安江さん

「家島町」ってご存知ですか。瀬戸内海に散在する四十余の島々「家島群島」のことです。九月二十三日、彼岸参りにお

墓へ出かけた陰地の安江浩さんが、ススキにからまった赤と黄の二つの風船を発見しました。なんとその風船は、前日に家島小学校運動会で手紙をつけて飛ばした七百個のうちの二つでした。さっそく手紙の主の二人の子供に便りを出した安江さんに返事が届きました。風の船と書く風船、それにしてもなんと長い「船旅」だったようです。

奉仕

まごころ込めて送ります
「かすみ草」の食事サービス



「この日は一番の楽しみ」と大河内さん(左)

「来ておくれるのが楽しみです」と独居のお年寄に大好評のボランティア団体「かすみ草」の食事サービス。十一月も四十軒の独居老人宅を訪ねました。現在メンバーは三十名。年齢も幅広い層からなっていると。産業祭でも雲仙への寄付のため芋餅などのチャリティーバザーを行い、九万三千九百八十九円を集めました。

戸籍の窓

十一月一日
十二月十五日 敬称略



誕生おめでとう
ございます

- (ん) (下親田) 有田 尚樹 (和津)
- (ば) (日向) 安江 広和 (美季)
- (じ) (日向) 安江 忠 (長女)
- (い) (平) 今井 邦廣 (長女)
- (け) (三和子) 満 (長女)



いつまでも
おしあわせに

- 今井 明德 (西洞)
- 伊藤 元子 (平)
- 村雲 辰善 (下親田)
- 細江 慶子 (下呂町)



おくやみ
申しあげます

- 安江 幸介 87歳 (日向)
- 荻田 奎亮 88歳 (陰地)
- 早瀬 勇造 89歳 (神付)
- 安江 久吉 91歳 (日向)
- 岩井 勘次 78歳 (神付)

善意の寄付 敬称略

講演

「人生は楽しむこと、それ即ち
鮎かけや」の一言で聴衆圧倒



身振り手振りを交えて熱弁

鮎かけに年間百数日は出向き、釣果は毎年四千匹は下らないという友釣り界の第一人者村田満氏を招いての「鮎釣り講習会」が十二月三日東白川鮎釣りクラブの主催で行われました。

集まったマニアはなんと九十二人。遠くは山県郡美山町からの参加もあり、人気の高さを証明。関西弁でのユニークな語り口は、大公望達を魅了しました。

交流

一通の手紙から
家族ぐるみのおつきあい



家族で記念撮影

「岡町村の交流の波及効果：去る十一月西洞の安江正彦さ

ん宅に香良洲町の近藤義三さん御一家六人が訪れました。実はこれ、正彦さんの三女留美ちゃん（五年生）と近藤さんの二女志保ちゃんとの文通から始まったもの。六月「桶十し網漁体験」で知り合った二人、手紙や電話の交換から家族ぐるみでお中元をやりとりする付き合いに進展。今度は、留美ちゃん一家が香良洲町へ招かれたそうです。

クリスマス

成果に手ごたえ？
青年フォーラム冬の陣



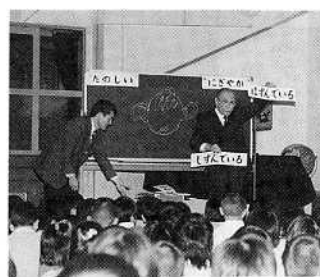
ムードは最高！あとは吉報待っただけ

「去年より参加者がリラック

スしてたし、かなりの盛り上がりでしたよ」第五回の青年フォーラム（白川・東白川独身男女の集い）クリスマスパーティーが十二月七日、シテイホテル美濃加茂で開かれました。スタッフも趣向を凝らし参加者同志の対話の時間を増やすなどの気の入れよう。実は昨年この会から生まれたカップルがゴールインするというめでたい話もあり、はたして今回は何組が…。

対話

「夢と豊かな心を伝えたい」
それが「かたりべ先生」の願いです



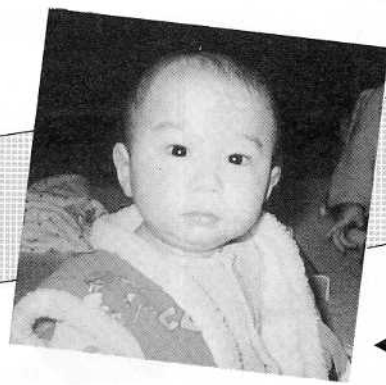
「心と心の対話が大切」と先生は語る

昔、文字がまだなかった頃、過去の出来事を後世に伝える役

目をしたのが「語部」です。「機械との対話が多い昨今、人と人との対話の大切さを理解して欲しい」と全国を縦断、子供たちに語りかけている「かたりべ先生」。こと光永久夫先生が、昨年に続き十二月十一日、小学校を訪れました。独特な語り口は、子供達に浸透。「来年も来て下さい」と心と心の対話がなされたようでした。

- （社会福祉施設整備基金指
定寄付金）
- 現金十万円 安江幸彦（日向）
 - 現金五万円 菊田喜郎（曲坂）
 - 現金百万円 今井一雄（大沢）
 - （越原センターステージ工
事指定寄付金）
 - 現金五十万円 榎マルコ
 - 現金九十万円 越原区
 - （病院医療機器購入指定）
 - 現金百万円 古田重一（柏本）
 - （社会福祉協議会）
 - 現金十万円 安江久治（日向）
 - 現金五万円 早瀬甲司（神付）
 - 現金一万円 岩井まさ彦（神付）
 - 現金四万円 匿名
 - （東白川小学校へ）
 - 竹ぼうき十六本・ぞうきん八
十四枚 老人クラブ高砂会
 - 工事入札の結果
 - ①は入札期日 ②は落札金額
 - および落札業者
 - ▼片倉線舗装工事（西洞）
 - ①十一月一日 ②二千三十九
万四千円、西野建設㈱
 - ▼黒淵水道改良工事
 - ①十一月十三日 ②四百八十
七万九千九百円、丸登建設㈱
 - ▼久須見、大野林道改良工事
 - ①十一月十三日 ②四百四十
八万五百円、㈱マルト土木

満1歳



早瀬裕次郎くん

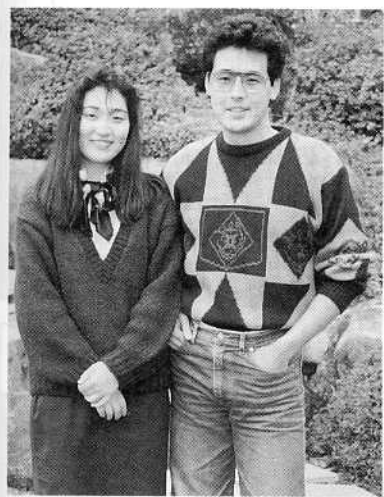
(章さん・奈々美さん長男—上親田)

このコーナーの子どもたちみな同い年。
10年後、20年後「広報」もみればホラ！
1歳のあの子の顔が……

ふれあい広場

新婚さん♡

■ワン・ショット■



この写真は引きのばしてお二人に進呈します。

「これからもよろしく」それがプロポーズの言葉でした。今月ご紹介するカップルは、十二月八日結婚したばかり、まさに新婚ホヤホヤの村雲辰善さん・慶子さんご夫妻(下親田)。

知人の紹介で四年前に知り合ったお二人、互いに結婚を意識したのは一年前からだそうです。

「第一印象で決めました」という一目惚れの慶子さんは下呂町森のご出身。村の印象については、「静かな所」と言い聞かされていたこともあってか、特別驚きはなかったそうですが「中京テレビが写らない」ことはショックだったとか。

九月末に約一ヶ月も入院するという大ケガをした辰善さん。下呂から通いつめて看病をした慶子さん、その甲斐あってか、お医者さんも驚くほどの回復ぶりだったそうです。

「お子さんは？」の質問には、お二人とも三人がご希望。終始当たられっぱなしの取材でした。

ふるもとのぼ

34

☆こな

「こな」は、ふだん、なんとなく使っていることばですが、こうしてその部分だけ書き抜くと「はて？」と考え込んでしまいます。「こな」の二文字だけで意味が分かったらすばらしいと思います。

やや難しい説明になりますが「こな」とは、動詞の連用形に付いて、その時、何かをしなかつたという意、または、まだしていないという意を表わす語です。

もつとくだけで言えば、「何々しないで」「何々しないまま」となるでしょうか。

朝寝坊した長男が学校へ行くぎりぎりの時間になって、やつと飛び起きてきました。シャツのボタンを大あわてにかけ、そくさと歯を磨いていました。靴を突っかけながら外に飛び出しました。

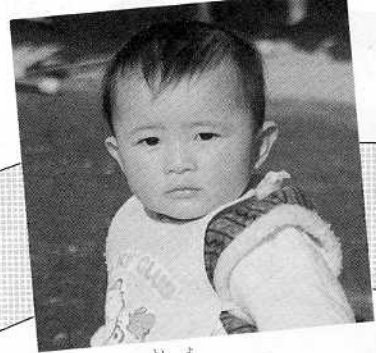
見ていたお母さんが慌てて、「あさこはんたべこないくかよ(朝御飯を食べないままで行くのか)」と声を掛けました。長男の「いらぬい」という返事は、通りがかったちびっこ集団のにぎやかな笑い声にかき消されていきました。

知人同志が話合っています。「○○さんにゆういんさしたげなの(○○さんが入院なさったそうですね)」

「そうやげなあ、まんだみまいにいきこなやけど(そうらしい、まだお見舞いに行っていないんだけれど……)」

こうして具体的に用例を挙げると「なーんだ」ということになりませんが、この「こな」の語源は、はっきりしません。どうやらこの地方の独特の言葉のよう、どの辞書を探しても見当たりにません。大切に残していきたい言葉の一つです。





▲安江伊代ちゃん
(達哉さん・弘子さん・二女＝大明神)

初春随想

今井利也(天山市)

「治水治国」という古語がありますが、最近ほ道の開発が、くにつくり大きく寄与するといわれています。帰郷のたびに、整備の進む村の立派な道路に接し、郷土の発展を肌で感じ嬉しく存じています。

村を離れてより約半世紀、年齢と共に、ふるさとを想う心が増幅していきます。小学校の同級会を時々開いて旧交を暖めています。一



「ヒマワリ」といえば夏を連想される方が多いと思いますが、この写真は十一月に撮影したものです。神田神社下の百年道路工事現場に一輪ボツンと咲いていました。



平成3年はヒマワリの問題の多い1年でした。

昨年は還暦の修学旅行を伊勢路で楽しみ、昨年は恩師鈴木鐘平先生を囲み、その米寿をお祝いの席で、子どもの頃の話に花を咲かせました。

「出身地は？」という尋ねによく出会いますが、「東白川」と答えると、「どこの白川？」と追い打ちがかかります。そこで、「お茶とつちのこの白川」というとすぐ判ってくれます。ひのきの里、清流の里……等を含めて、村おこしに力を注いでおられる皆さん方のご努力に心を打たれます。役場の封筒にも、ひのきの図柄が刷られているなど、村づく



今井利也さん(宮代出身)

りの暖かさや、こまやかさを知ることが出来ます。秒読みの段階に入った二十一世紀は、「心の時代」といわれていますが、多くの人に東白川の上さをぜひ知ってほしいものです。そうした意味でも、東白川中京村人会の構想が進むよう、愛知に住む一人として願っています。

「楽しく仕事をしてこれたから続けられたんやろうね」と元気に語って下さったのは、竹細工を作って七十年、今年八十五歳になる安江武一さん(陰地)。竹細工との出会いは、学校卒業の頃に遡るそうで、その頃体を煩ったため、「何か家においても出来る仕事を」と考えたのがこの「竹細工」でした。「夏場は虫が喰って竹の性が悪くなる。早い時期やと三月くらいから虫喰いが出来る。八月いっぱいまでの竹は使えんね」とおっしゃる通りに、仕事は農閑期である冬場のみ。今では頑張ってもひごを一日一個か二個しか作らないそうですが、以前は、一日六個から七個は、作っていたそうです。また、現在は一宮市の業者からの注文だけを受けているそうですが、以前は村内外から依頼されて、五加や加子母村の方までもひごや目か

働くお年寄り 我が生涯 第一筋 竹細工

「竹を薄く、丈夫になおかつ、均等にそぐことが一番難しい」とおっしゃる安江さん、これといって長寿の秘訣など考えたこともないそうですが「お酒」だけは毎日欠かしたことがないとのこと。

「昼間ちよこつとだけお酒を飲んで仕事をする、仕事はかどり調子がいい、仕事が順調にいくと晩酌もうまい」とどうやら安江さんにとっては毎日の少量のお酒が「百薬の長」のようです。

「仕事がおもしろいから」と本当に楽しそうに語って下さった安江さん、小刀を器用に扱う姿がとても印象的でした。



手さばきも鮮やかに

わたしの作品



▲「校舎」東白川中学校1年生
今井昭寿さん(陰地)



東白川小学校3年生
▼安江さくらさん
(上親田)



▲「校舎」東白川中学校1年生
安江志保さん(大明神)



▲「牛」
東白川小学校1年生
安江賢介さん(神付)



▲「ひなんくんれん
がありました」
神土保育園 なかしまたかきくん(西洞)



広報文芸

●短歌

(広報に七年間投稿された早瀬勇造さんが他界されました。冥福を祈るとともに最後までとなった投稿を掲載します。)

点滴を取り付けくるる看護婦の眼は真剣にその手やさしき 故早瀬 勇造
茶柱の立つ朝の茶に松茸の秋の香交りて快よき部屋 同
庭先で啼くこおろぎの群の中只チチとだけ啼く声交る 同
隣り部屋向いの部屋もかけもちに曾孫走る足音がする 同
向かい山の緑一面のその中に紅葉する一樹は境なるらん 同
改築の記念に植えし唐松の影絵で丈を計り見て居り 同
病む吾を案じて嫁の智恵うれし一定の温度に保つ室ぬち 同
汚職などそしらぬ顔の新総理こぼれんばかりの笑顔は何ぞ 同
○夫逝きし北鮮に続くこの海か東尋坊に立ちひそかに呼びかく 同
ガラス越し冬の日さしの温りてシャコバの蕾紅くふくらむ 同
何んたつて松茸だよと鍋を囲み友と酌む夜の更くるを忘れて 同
盆栽の標は日に葉をふるい冬木となりて雪虫のとぶ 同
倒れたる小菊を起し草ひけば冷え冷えとして土柔し 同
●玉葱を植え居る吾の背にも触れ柿の落葉は畑に散り敷く 同
花嫁のかんざしゆれて歩く度初冬の朝の陽にきらめきぬ 同
●冷えしるき今朝と思へば田に積みし切藁真白く初霜を置く 同
紅葉の山狭を縫ひて竿売りの声通り過ぐいと長閑に 同
できないと罵られるを知り乍らめげずに見入る「今日の料理」を若井のぶえ 同
巡りみな乳色の霧に包まれて靴底に確め登る乗鞍 同
枯落葉ともなひて吹く冬の風漬物漬ける肌にしみ入る 同
久々に心励し辿る道身の万歩計ゆれて愛らし 同
薩摩芋備中で掘りしが割れる多し凍みに弱くて保存に向かぬ 同
●作物を荒すけもの見張り番カンテラの灯のにぶく揺らめく 同
秋深むこの世を離れし人に問ふ汝のゆく道も虫の啼けるや 同

あなたの作品をお寄せください。初心者、とくに若い人たちの投稿を歓迎します。●偶数月の二十日までに神土伊藤重雄宛に出して下さい。

こぼれ話



私の場合、懐かしく心に浮かぶ「故郷」というのは小学校六年から中学校三年になるまで過ごした、この東白川村なのです。多感な年ごろを過ぎたせいなのか

新年号にふさわしい心暖まる話。ある月刊紙に「私のふるさと自慢」と題して村に係する文が載っていた。私には故郷が二つあります。一つは、自分が生まれ、今も両親が住んでいる地。そしてもう一つは、父の転勤で三年間だけ住んだ岐阜県内の東白川村という所です。

夏ともなれば、鮎かけの釣り糸をたれる人があちこちに見受けられ、鮎がかかるのをのんびりと待つ姿にも、心なごむものがありました。——中略——

たった三年間でしたが、山や川、田畑、そして何よりも温かい人たちに囲まれて過ごしたことを、私の「故郷」と思っています。今から、二〇年も前のことですが……

●心に宝物を持つ主婦36歳——
読んだ後、感謝の気持で目頭があつくなった。と同時に、村に住む私達は何をすべきか、わかつたような気がする。